



木徳神糧株式会社  
証券コード：2700

2012年12月期

# 決算説明資料

 木徳神糧株式会社  
2013年2月28日



KITOKU SHINRYO

木徳神糧株式会社  
証券コード：2700

# 2012年12月期 連結業績の概況



## 決算ハイライト (P/L)

木徳神糧株式会社  
証券コード：2700

単位：百万円

	2011年度	2012年度	増減額	前同期比
売上高	100,745	109,218	+8,473	108.4%
売上総利益	7,468	6,729	▲739	90.1%
売上比	7.4%	6.2%		
販売管理費	5,899	5,965	+66	101.1%
売上比	5.9%	5.5%		
営業利益	1,568	763	▲805	48.7%
売上比	1.6%	0.7%		
経常利益	1,574	786	▲788	50.0%
売上比	1.6%	0.7%		
特別損益(注1)	△780	33	+813	-
売上比	-	0.0%		
当期純利益(注2)	351	638	+287	181.6%
売上比	0.3%	0.6%		

注:1. 2011年度の特別損益は、東日本大震災の影響により多額の特損が発生したため。

2. 2012年度の当期純利益は、米穀事業子会社との合併により実効税率が低減した効果がありました。

2 Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

売上高は1,092億1,800万円で、前年比108.4%、約84億円の増収でした。増収の内訳は、主力の米穀事業の売上高が前年比108.8%、食品事業は前年比103.3%、飼料事業は127.7%と大幅に前年を上回っております。

売上総利益は、前年比90.1%に、売上総利益率も前年の7.4%に対して当期は6.2%と1.2%低下しました。主力の米穀事業での米相場の上昇で原料原価が上昇し、利益率が低下させたことが主な要因です。加えて、米穀事業における物流及び保管コスト等の増加により、販売費及び一般管理費も増加しており、営業利益を押し下げる要因となりました。この結果、営業利益は7億6,300万円で、前年比48.7%の減益となっております。

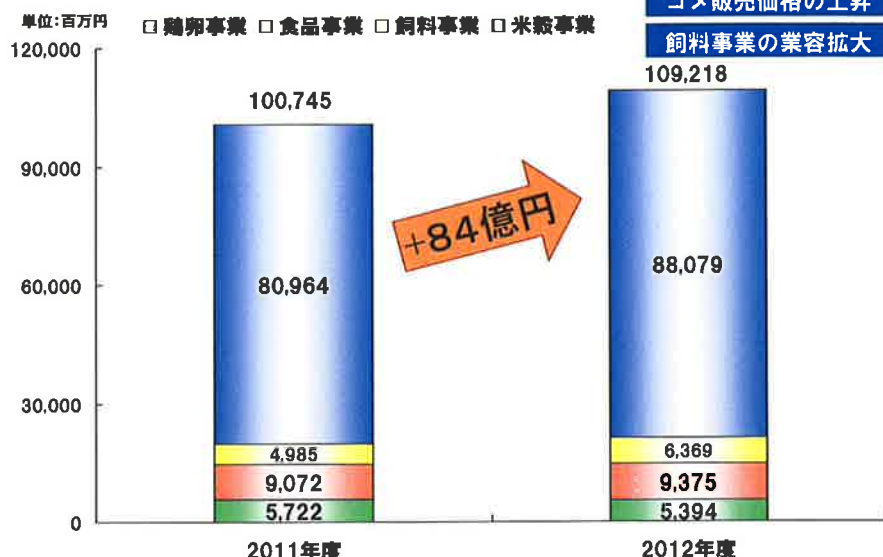
経常利益は、調達金利が低く推移したことで支払利息が前年度を下回り、営業外損益はNETしてプラスの約2,300万円となり、経常利益を若干押し上げました。

特別損益は、前年は東日本大震災の被害を受けて多額の損失を計上しましたが、当期は当社桶川工場の土地の一部が道路建設のため国の土地収用となったことなどで、特別損益でもNETして3,300万円のプラス要因となりました。また、当期に米穀子会社3社を合併したことで、このうちの一社で税務上の繰越欠損金があったため、法人税等の軽減に寄与し、当期純利益を押し上げ、前年を大幅に上回る結果となりました。



## 売上高（セグメント別）

木徳神糧株式会社  
証券コード：2700



3 Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

売上高は前年比約84億円増加しましたが、そのうち主力の米穀事業では約71億円増加しております。この主な要因は二つあります。

一つ目は、販売価格の上昇です。平成23年産米は平成22年産米と比べて大幅に取引価格が上昇しましたが、平成24年産米はその平成23年産米をも上回る価格で推移しております。この価格上昇が売上高を押し上げる結果となっております。

もう一つの要因は、国産の精米販売が好調であったことです。米穀事業の合計の販売数量は前年比で約49,000トン減りましたが、このうち、国内の玄米販売は前年比約14,000トンの減少、外国産の精米もミニマム・アクセス米で一部納期がずれ込んだことや落札できなかったことなどで約48,000トン減少しました。しかしながら国産の精米は、特に西日本に販路を広げ業務用を中心に販売が順調に伸び、前年を約14,000トン上回りました。

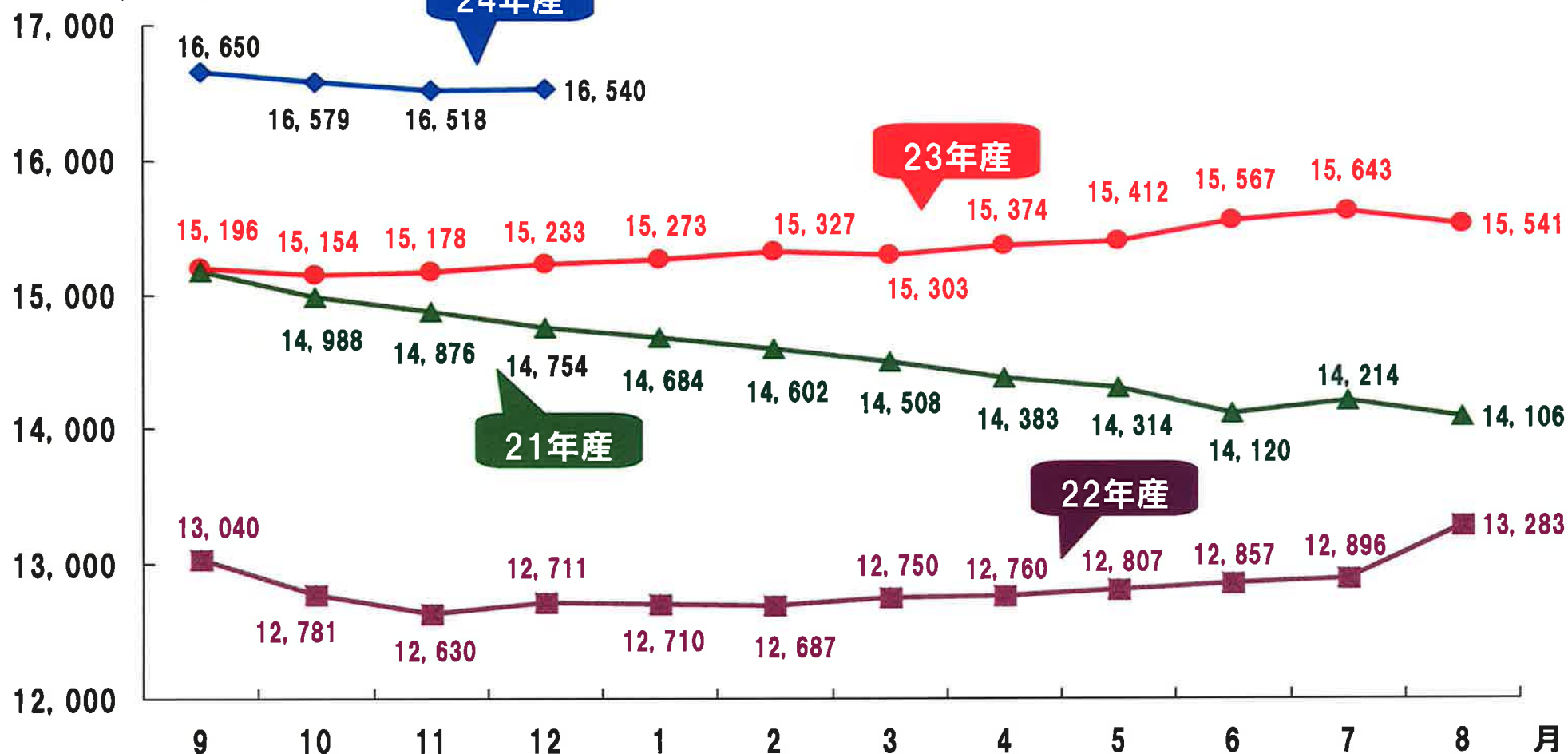
また、飼料事業部では前年比127.7%、約13億円の増加となりました。この要因は、配合飼料相場が4月より上昇に転じたこと、積極的に販売規模の拡大を図り、糟糠類や牧草の販売数量を前年比2割強増やしたことが主な要因です。



# コメの相対取引価格の推移

木徳神糧株式会社

単位：円/60キロ



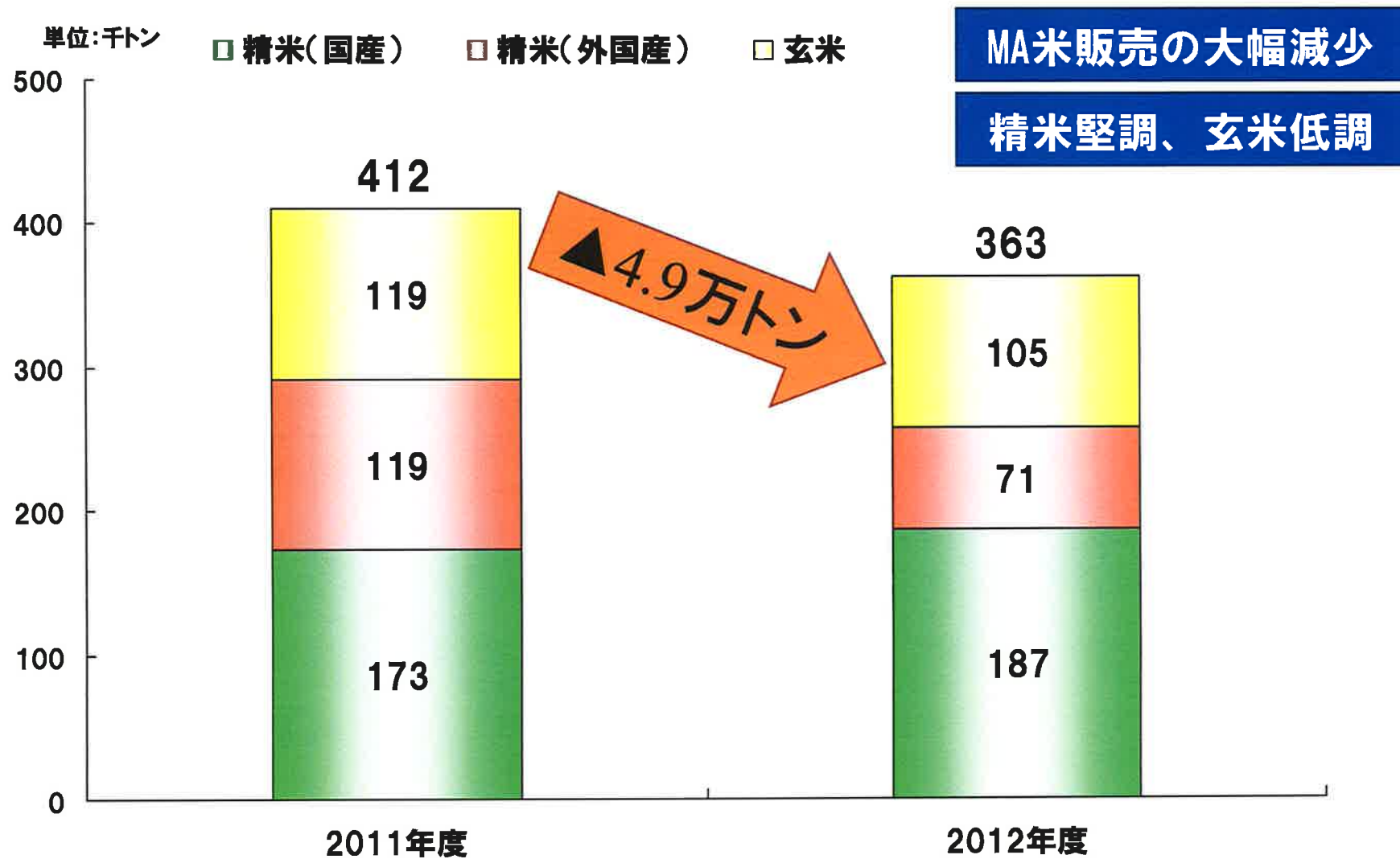
注：1. 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

2. 相対取引価格は全銘柄平均価格であり、産地銘柄ごとの前年産検査数量ウエイトで加重平均した価格である。



# 販売数量（米穀事業）

木徳神糧株式会社  
証券コード：2700

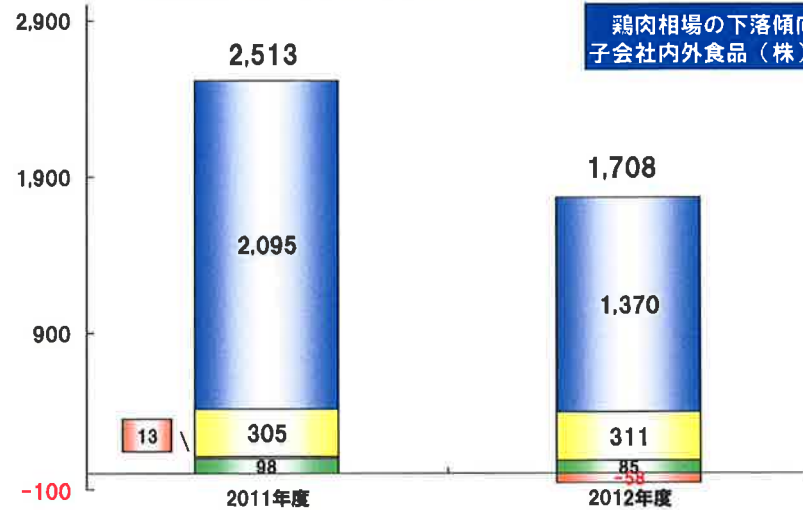




## 営業利益（セグメント別）

木徳神糧株式会社  
証券コード：2700

単位：百万円 □ 鶏卵事業 □ 食品事業 □ 飼料事業 □ 米穀事業



コメ販売価格値上げの遅れ

鶏肉相場の下落傾向が続き、  
子会社内外食品（株）の業績悪化

注：1. 営業利益合計には2011年度、2012年度とも消去額▲944百万円を含んでおります。

6

Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

営業利益は、米穀事業が前年に比べて約7億2500万減少しました。この主な要因は、コメの仕入価格の上昇です。平成23年産米の需給が引き締まっていたことから相場が高くスタートしましたが、政府の備蓄米4万トンの放出や、平成24年産米の作況指数「102」のやや良と見込まれたことから、端境期に向けて先安感が強まりました。しかし、前年における集荷率の低迷を挽回すべく、集荷団体が生産者への仮渡金を大幅に引き上げたことで、平成24年産米の相場はスタートから平成23年産米をさらに上回る高値で推移しました。これに伴って、端境期における平成23年産米の価格も高騰を続け、当社でも安定供給を果たすために高値での調達を余儀なくされました。

一方、販売環境も厳しく、2年連続での米価の大幅な上昇に対して消費者及び実需者は抵抗感が強く、仕入価格の高騰を販売価格に転嫁することは容易ではありませんでした。

加えて夏の猛暑の影響で、平成24年産米の一部の銘柄で品質低下があり、歩留まりが悪化しました。

また、販売エリアの拡大に伴う生産体制や物流網の整備などのコストや、在庫の保管コストなどの販売費も増加しました。

これらの要因で、米穀事業の営業利益は前年比を大きく下回りました。

その他事業の営業利益ですが、食品事業につきましては、鶏肉の国内における輸入品の在庫過多を背景にした長期にわたる鶏肉相場の低迷がわが社の収益を悪化させ、食品事業トータルでも営業利益はマイナスとなりました。

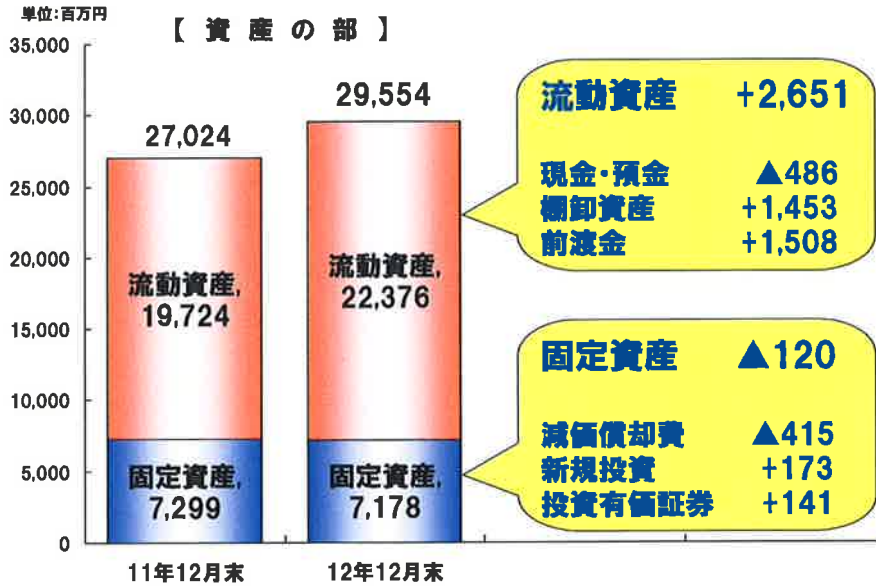
鶏卵事業につきましては、販売数量の伸びに反して利益率は低下しました。

また、飼料事業部では、売上高の増加に伴い営業利益は増加しておりますが、競争の激化で営業利益率は低下しました。



## 資産、負債及び純資産の状況（1）

本徳神糧株式会社  
証券コード：2700



7

Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

流動資産については、前年度末と比べ約26億円増加しました。

棚卸資産の増加はコメの安定供給のための原料米確保と地方における地元の原料米確保に力を入れた結果です。

前渡金につきましては、ミニマム・アクセス米の仕入代金であり、船積みから検品が期を跨いでしまったためです。なお、ミニマム・アクセス米については、最終的に国への売り渡しの検品が全て終了して初めて全て売上計上や仕入計上ができるものです。

固定資産では、新規設備投資が1億7,300万円あり、減価償却費が4億1,500万円ありました。

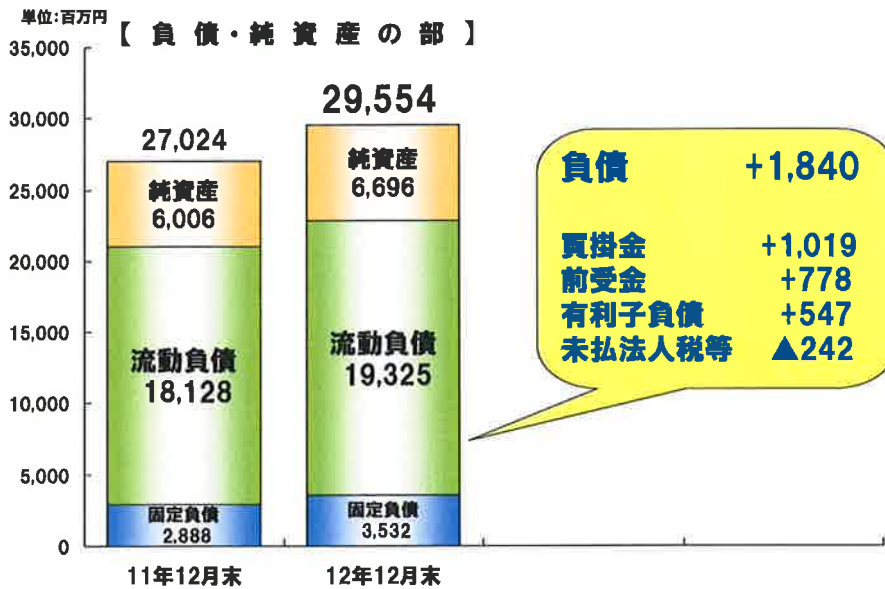
以上の要因により、流動資産、固定資産合わせて総資産295億5,400万円となり、前年比25億3,000万円の増加となっております。





## 資産、負債及び純資産の状況（2）

木徳神糧株式会社  
証券コード：2700



8

Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

一方、負債では、期末でのコメの仕入の増加で買掛金が前年比10億1900万円増加しており、加えてミニマム・アクセス米の売上入金分の一部が前受金としてあり、有利子負債も長期、短期借入金合わせて5億4,700万円増加しました。結果、負債合計では前年比18億4,000万円の増加となりました。



## 決算ハイライト (B/S)

木徳神糧株式会社  
証券コード：2700

単位：百万円

	2011年度	2012年度	増減額
総資産	27,024	29,554	+2,530
純資産	6,006	6,696	+690
自己資本比率	20.7%	21.4%	+0.7%
1株当たり 純資産 (円)	659.04	744.27	+85.23

9 Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

純資産は66億9600万円となり、自己資本比率は21.4%と前年より改善しました。

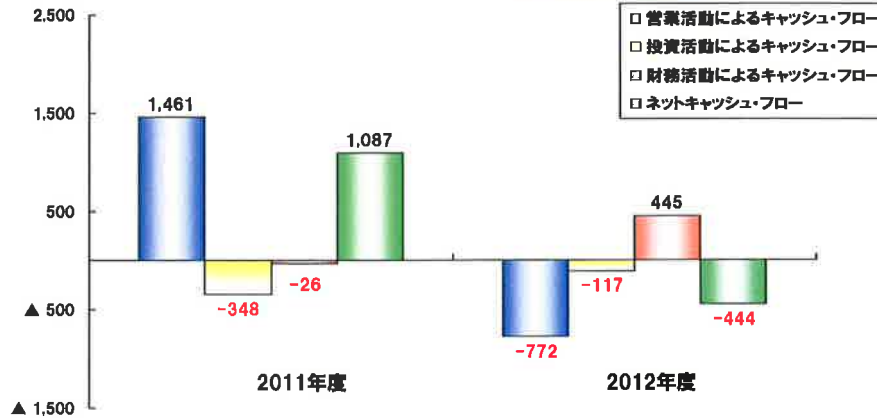


# 決算ハイライト (C/F)

木徳神糧株式会社  
証券コード：2700

単位：百万円

	2011年度	2012年度	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,461	▲772	▲2,233
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲348	▲117	+231
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲26	445	+471



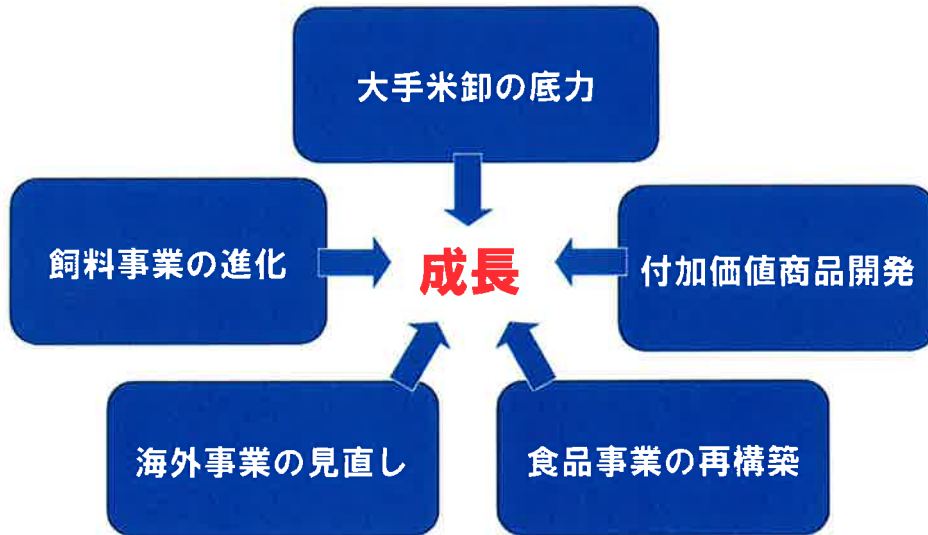
10 Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

キャッシュ・フローでは、前年は営業活動によるキャッシュ・フローがプラスであったが、当期はマイナスの7億7,200万円となりました。これは期末におけるミニマム・アクセス米の、前渡金の発生が主な要因となります。



木徳神糧株式会社  
証券コード：2700

# 経営戦略



当社の成長には、大手米卸の底力をこれから発揮していかなければ成長は見込めないと考えております。

また、この数年、飼料事業も大幅に利益を増やしてきておりますので、この事業は拡大させていきたいと思っております。

そして、低カロリー米や腎不全患者の方に食べていただく低たんぱく米等の機能性食品の開発にもっと注力してまいります。また、コメ油の消費拡大を独自で図ってまいります。

「海外事業の見直し」では、海外法人、特にベトナムと中国の事業戦略の見直しを図ってまいります。

「食品事業の再構築」では、関連子会社の内外食品(株)、東洋キトクフーズ(株)の再構築を図ってまいります。



◇**事業規模の拡大**

- ・ **販売数量の拡大**  
既存取引におけるシェア拡大を最優先に
- ・ **販売地域の拡大**  
東北、関西、中四国、九州を重点地域に

◇**仕入力の強化**

- ・ **仕入ルートの複線化**  
産地、集荷団体、農協別の取り組みを推進
- ・ **契約手法の多様化**  
播種前、収穫前、複数年契約の拡大
- ・ **仕入体制の充実**  
各地域における地元玉仕入の強化

販売数量の拡大には、既存のお客様に対して、数量的にあるいは品質的にも満足をしていただけるような形をとっていくことが一番大事です。前期においては高い原料米を買わざるを得ない結果となり、利益率を低下させました。しかし、大事なお客様への安定供給は当社の責務と考えます。既存のお客様には、不足感を与えないということで今期も進めております。

また、販売地域の拡大については、関東地区はもちろんのこと、東北、関西、四国、九州にも注力していきます。全国展開をしている量販店や全国に広がっているベンダー向けの供給、加えて地元の量販店や地方の外食産業へもこれからは販売をしていきます。

「仕入力の強化」というのは、仕入ルートの複線化を図ってまいります。私社は仕入の60%以上が全農からの仕入です。今期もそのような形で進めておりますが、但し、全農に頼りすぎると当社にとってもリスクが大きいと考えます。当社が自ら産地と交渉を行い、結果として全農の集荷率アップにつながるようなやり方をこれからも進めていきたいと考えております。決して反全農ではありません。そのためには、契約手法もいろいろと多様化に進んでいかなければいけないと思っております。

また、各支店の地元の原料米の仕入については、各支店の裁量に任せていこうと、仕入れの権限を大幅に委譲していこうと考えております。



◇**営業提案力の向上**

- **経営資源の相互活用**  
友好卸との工場の共同利用や物流の協業を推進
- **取引先とのPB商品開発**  
コンビニでの精米販売を支援、地域別にTVCMを投入

◇**生産拠点の拡充**

- **桶川工場精米ライン増設、年間生産能力10万トンへ（4月完成）**
- **岡山工場精米ライン増設（4月から着工）**
- **本牧工場一般精米ラインの全面的なリニューアル**
- **各工場の品質管理のレベルアップ及び水平展開を推進**

経営資源の相互活用については、一昨年、仙台の工場が被災してまだ復旧しておりません。そういう中で、東北のパールライス各社に精米製造を委託しております。また、友好卸の神明等の工場も活用しております。

また、セブン-イレブンのベンダー向けの原料米の供給だけでなく、セブン-イレブンの店頭でお客様に袋に入ったお米を買っていただけるような形をとってまいります。この関連で2月中旬から3月下旬までにテレビコマーシャルを九州全域で放送しております。既に効果が相当出てきておりますので、テレビコマーシャルの放送地域を拡大していきます。次は中国地区あるいは四国地区と考えております。特に四国は今度セブン-イレブンが3月から新規出店となります。

次に「生産拠点の拡充」ですが、基幹工場である桶川工場の精米ラインを一ライン増設しております。4月に完成しますと、恐らく日本一の精米工場となり、年間約10万トンの精米能力を持ちます。また、四国等での供給体制を整備するため、岡山工場で専用の精米ラインを4月から着工していく予定です。さらに、本牧工場の普通精米の工場は既に四十数年を経て老朽化が進んでおり、耐震構造も芳しくないと思います。スクラップアンドビルドという形で新しい普通精米の工場を作り上げる予定です。それと同時に各支店、各工場の品質管理のレベルアップ、水平展開をこれからも進めてまいります。



KITOKU SHINRYO

## 国内の主な製販拠点（参考）

木徳神糧株式会社

関西支店



新潟製粉工場(米粉)



東北支店



中四国支店・岡山工場



桶川工場



九州支店・福岡工場



滋賀工場



東海支店・静岡工場



本牧工場



本社





◇中国事業の推進

・事業規模の拡大

COFCOとの協力関係を強化、日系企業に特化した販売  
販売エリアの拡大（北京、天津、青島、上海、華南地区等）  
規模拡大に対応すべく現地法人資本金を約1.5億円に増資  
（1月当局認可済、4月実施）

・品質向上に注力

中国米の精米品質向上への技術支援を強化

・販売体制の強化

現地法人（木徳大連）に営業及び仕入の権限を委譲  
従業員の現地化や組織化を推進

注：COFCOとは、中国最大手の穀物商社である中糧集団有限公司の略称。

16 Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

当社は中国最大手の穀物商社であるCOFCOとの協力関係を強化していきま  
す。特に中国にある日系企業に特化した販売を展開し、中国東北三省のおコメを  
もっと拡大していきたいと思っております。北京、天津、青島、上海、華南、それ以  
外にも成都地区にも販売エリアを広げていく予定です。

そして、中国現地法人の資本金を増資して1億5,000万円にしました。これはすで  
に中国当局の認可をされており、4月には実施する予定です。

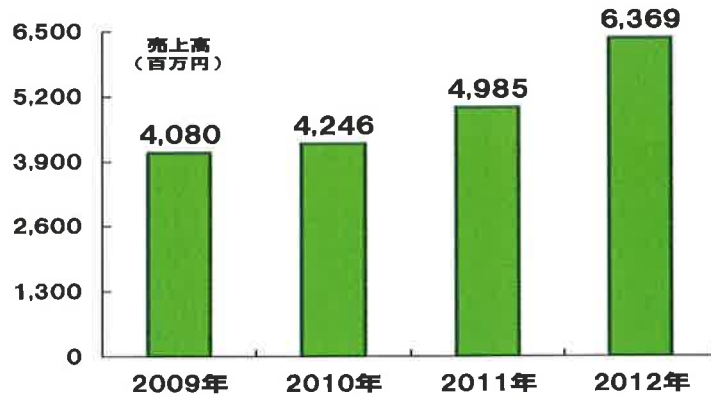
COFCOの精米工場はどれも大型で、細かな精米が出来ていません。このような  
点において、歩留まりの向上や精白度の微調整、あるいは碎米の発生比率を減ら  
すこと、炊飯の指導等、中国米の品質向上に努めてまいります。

現地法人に日本人の営業営業担当者3名を出向させておりますが、中国側の総  
経理にもっと権限を委譲して、日本人スタッフ、現地スタッフも、同じ気持ちで業務  
の拡大に取り組んでもらいたいです。



◇事業規模の拡大

- ・全国展開へ  
北海道、九州、関西における新規取引の強化  
企業畜産への販売を促進



飼料事業は、年々売上も増えており、利益も確実に確保させていただいております。特に、北海道あるいは九州、関西における新しい取引をひとつ強化していきたいと思っております。

企業畜産への販売を進めていくつもりです。



◇安全・安心な供給体制づくり

- ・環境や需給変化を先取りできる体制を構築
- ・検査体制や情報伝達にグループの力を活用

◇販売ルートの多様化

- ・配合飼料メーカー向け販売シェアの拡大
- ・飼料販売店への深耕開拓の強化（輸入乾牧草等）
- ・きのご培地向けの飼料原料販売の強化

◇輸入飼料の仕入ルートの拡充

- ・専門性を生かして差別化できる原料の開拓
- ・グループの海外拠点との連携強化

◇エコ社会形成への取組み

- ・食品加工工程で発生する副産物の活用

飼料事業に関しましては、当然、安全・安心な供給体制を作っていきますが、販売ルートが非常に多様化しております。販売ルートの多様化と同時に、仕入のルートも増えております。牧草等も輸入しておりますし、配合飼料メーカー向けの原料となる飼料も販売しております。

エコ社会形成への取組みにおいて、食品加工工程で発生する副産物の活用とは、例えばお菓子を作る時に崩れたもの、あるいはパン粉を作って不要となったもの、所謂商品として消費者に提供できないものを無駄なく飼料原料として活用することです。



#### ◇ベトナム事業の見直し

- ・ ジャポニカ米栽培、集荷、加工の各工程を再構築
- ・ 三国間貿易の拡大（ジャポニカ米6千トン、香り米1万トン）

#### ◇海外市場向けに販売環境を整備

- ・ 将来日本米の輸出を見据え、ベトナム米やタイ米の中国向け（COFCO）輸出を推進
- ・ アメリカ産中・短粒種や日本米をシンガポール、マレーシア等への販売を強化

#### ◇MA米・SBS米の安定的な輸入

- ・ 現地における情報収集や業務連携を強化
- ・ 国内業務用向けのSBS米輸入の継続

ベトナム事業を大きく見直していきたいと思っております。前期ではベトナム現地法人が赤字となりました。ジャポニカ米の栽培それから集荷、加工に失敗したためです。

これからコストを削減するためには、集荷価格の決めとしてベトナム産の長粒種に対してプラスアルファの価格での契約の手法に変更します。全て言いなりに買うのではなく、簡易籾摺り機を設置して玄米の品質を見てから値段を決めていきます。

今期はジャポニカ米は、精米で6,000トンを扱う予定です。マレーシア、シンガポール、香港、一部ヨーロッパへ販売し、残りはベトナム国内消費となります。また、メコンデルタに位置するアンジャン省だけではなく、北部のハノイの精米業者とも一昨年から組んで、北部のジャポニカ米をハノイ港から輸出する取組みを今期から始めます。

海外市場向けに販売環境を整備し、将来国産の日本米の輸出を見据えて今はベトナム米とかタイ米を販売します。中国は既におコメの輸入国となりました。中国側は東南アジア諸国との直接取引より、当社仲介の形が好まれております。このビジネスもこれから増やしていきたいと思っております。

また、アメリカ産中粒種のカールローズ、短粒種のジャポニカ米、そして日本米をシンガポールやマレーシア等へ輸出販売します。日本米の輸出には補助金等のバックアップがあり、国産米の輸出を拡大していきたいです。

MA米・SBS米の安定的な輸入については、昨年MA米で大きな失敗をしました。ベトナム米を3万トン農水省向けに販売しましたが、現地情報収集の悪さから集荷したコメから基準値以上の農薬成分が検出されました。3万トンの輸出をするために約6万トンのおコメを集めなければなりませんでした。



◇低たんぱく保存食の開発

- ・酵素技術の活用、長期保存米の開発・販売を推進

◇低たんぱくシリーズの拡充

- ・低たんぱくせんべいの新商品（カレー味、青のり味）
- ・焼きおにぎりをはじめとした携帯用食の充実

上段：販売数量万食、下段：市場占有率%

会社名	2010年	2011年	2012年
キッセイ	614 37%	587 36%	608 36%
木徳神糧	398 24%	425 26%	428 25%
ホリカ	331 20%	284 17%	348 20%
三和	194 12%	208 13%	193 11%



低たんぱくせんべい5種類

注：菊地幸雄氏の業界レポートよりデータを当社が編集・整理したもの。  
20

Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

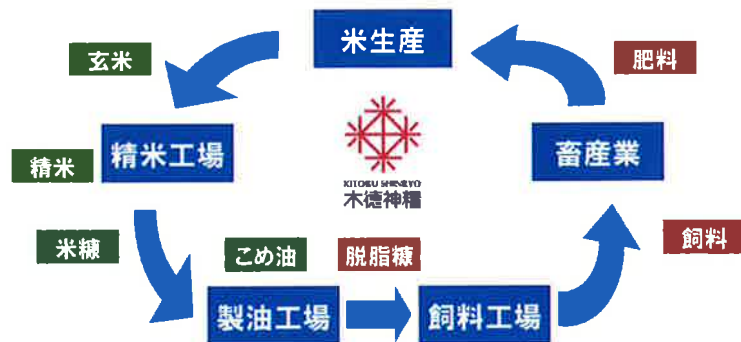
低たんぱく米については、従来新潟で乳酸菌の醗酵技術を使ってたんぱく質を抜いたお米を販売しておりました。おせんべいでは、新商品のカレー味や青のり味を発売しました。また、焼きおにぎりのような携帯用商品も充実させて、腎不全の方がいつでも安心して食べられるよう、商品の拡充を図っていきます。

当社は低たんぱく米市場においては二番目のシェアを持っております。これから酵素技術を活用し、たんぱく質を抜いたアルファ化した商品を開発していきたいです。テストプラントで検証し、米粒で1年以上の賞味期限を確保できるよう努力していきます。順調なら将来海外マーケット向けに安価で良品質の低たんぱく米を供給していく構想を進めていきます。



◇循環型ビジネスの推進

- ・精米加工で発生する国産米の糠を活用、安全・安心なNon-GMO植物油「こめ油」を拡販
- ・副産物の脱脂糠を再利用、飼料原料として販売 食料自給率向上の一助に



注:Non-GMOとは、非遺伝子組み換え作物(Non-Genetically Modified Organism)。

21 Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

Non-GMOとは、遺伝子組み換えをしていない作物です。特に大豆、コーンの生産においては、アメリカでは9割が既に Non-GMOではありません。食用油にも遺伝子組み換えの原料が使われている可能性があります。当社は消費者に純国産米油の安全性をもっとアピールし、使っていただけるよう啓蒙活動を進めていきます。



◇**鶏肉事業（内外食品（株））の改革徹底**

- ・生産、加工、販売、管理体制の総見直し
  - 生産面：マーケット志向の雑飼育へと転換
  - 加工面：製販連携強化を促進
    - 真壁工場に熱加工設備を新規導入（6月完成）
  - 販売面：小売店中心からの脱却
    - 付加価値商品（つくば鶏）の販売強化
    - グループセールス事業部（当社）との連携
  - 管理面：体制強化に当社からの人的支援を強化

◇**惣菜事業（東洋キトクフーズ（株））の見直し**

- ・内外食品との連携を強化、新商品作りを推進
- ・採算性を重視、工程別の見直しを実施

東日本大震災の後、鶏肉が完全に不足するという商社の思惑から、ブラジルから大量な鶏肉が輸入されることとなりました。この影響で一昨年から昨年11月までに相場が下がり続けました。このため、子会社の内外食品(株)は、良質の国産のつくば鶏といってもなかなかお客様には高値では受け入れてもらえなかったため、赤字に転落しました。

現在内外食品(株)の真壁工場に熱加工の設備を設置しております。5月の完成後は、同じく子会社である東洋キトクフーズ(株)の惣菜工場と連携を取りながら、鶏肉主体の惣菜を開発していきます。



KITOKU SHINRYO

木徳神糧株式会社  
証券コード：2700

# 2013年12月期連結業績予想





## 2013年12月期連結業績予想

木徳神糧株式会社  
証券コード：2700

単位：百万円

項目	12年12月期実績	13年12月期予想	増減額	増減率
売上高	109,218	124,000	+14,782	+13.5%
営業利益	763	820	+57	+7.5%
経常利益	786	750	▲36	▲4.6%
当期純利益	638	450	▲188	▲29.5%

24 Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.

売上高こそ増えても利益を取るのが難しいと予想しております。これは平成24年産米がこのまま高値で推移してしまっていること、お客様の要望に応えるためには全農以外のルート、卸市場からも高い原料米を仕入れなければ、お客様のニーズに応えられないなどが大きな要因です。

主食を担う米卸会社としては、お客様のニーズに応えられることが大変重要です。前期は100%以上の数量を供給しておりますが、今期も継続していきます。そして、安全で安心なおコメを安定供給するということを目指して努力していきたいと思っております。



**本資料は、会社情報、経営計画、連結業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。**

**また、本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。**

**本資料は、2013年2月18日現在のデータに基づき作成しております。**

**【お問い合わせ先】**

**木徳神糧株式会社**

**TEL：03-5636-1502 Email:ir@kitoku-shinryo.co.jp**

**URL <http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>**